

5月27日正午必着

明石春浦先生書



塞鴻歸欲盡
江花鋪淺水

北客始辭秦
山木暗殘春

零桂雖逢竹
修刺轅門裏

瀟湘少見人
多憐爾爲親

明石幸子書



燕語簾櫳

(劉禹錫)

雨後人散じた後の光景。

5月27日正午必着

昔賢懐一飯一茲事已千秋
古墓樵人識前朝楚水流
渚蘋行客薦山木杜鵑愁
春草年年綠王孫舊此游

眞白くも五月の空にあらはれてほしいままにもゆく雲を見る
(窪田 空穂)

風清人倚樓(劉 汶)
竹外煙浮僧煮茶
艸邊風暖鹿眠沙(朱世濂)

風清人樓に倚る
竹外煙浮かんで僧茶を煮
艸邊風暖かく鹿沙に眠る

風が涼しく、人は樓にもたれている。
竹外に煙の浮くのは僧が茶を煮る爲めであり、
草のあたりは風が暖かく鹿が沙に眠っている。

条幅部創作課題

四種の詩文から一種を選択して出品のこと。

緑樹殘春暗 雙飛錦翼齊
長沙有遷客 莫向雨中啼 (王 恭)

晩春のこととて緑樹が茂って陰は暗く、美しい翼の二羽の鷓鴣が飛んでいる。
雨の中、鳴かなくてくれ。都から左遷された長沙の人が郷愁を催すから。



叶 采園先生書

半紙部規定課題A

5月27日正午必着

門 應
愁 念
倚

※作品には必ず落款を入れてください。

明石春浦先生書

※課題A(楷書)と課題B(五体の中より一書体選択)の二点を出品のこと。



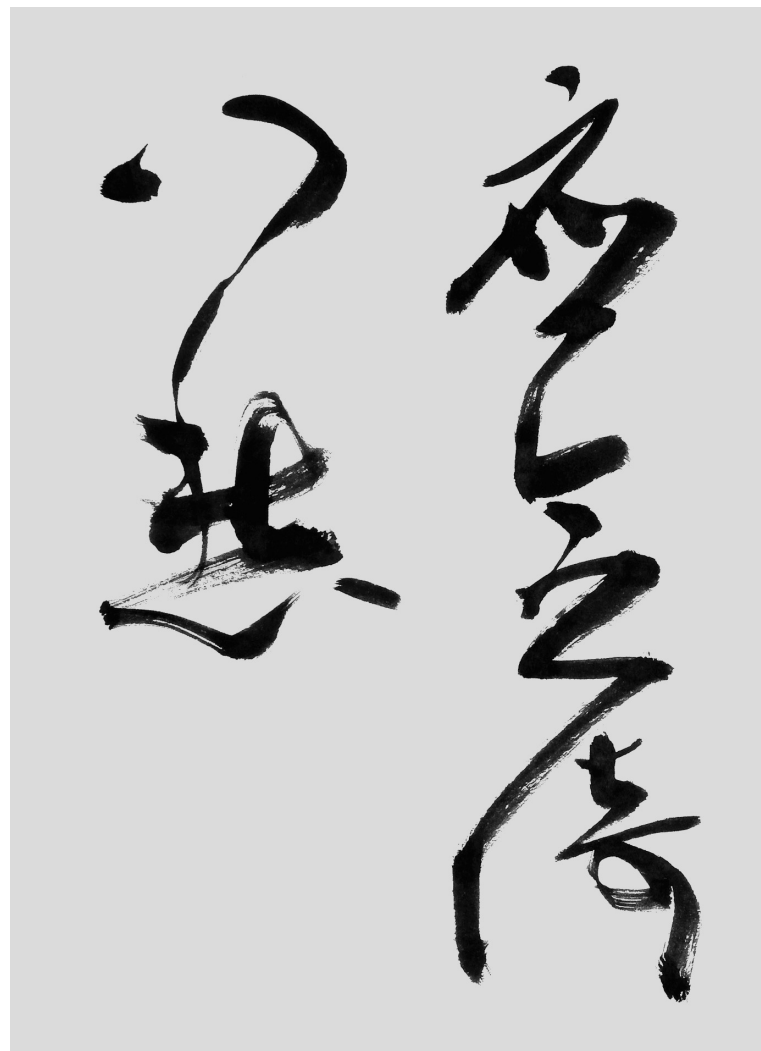
草書



行書



隸書



行草書



篆書

送王牧往吉州

謁史君叔

細草綠汀洲

王孫耐薄游

年華初冠帶

文彩舊弓裘

野渡花爭發

春塘水亂流

史君憐小阮

應念倚門愁

王牧が吉州に往いて史君叔に謁する
を送る

李嘉祐

細草 汀洲に緑に

王孫 耐く薄遊す

年華 初めて冠帯し

文彩 旧と弓裘し

野渡 花争って発き

春塘 水乱れつつ流る

史君 小阮を憐れむも

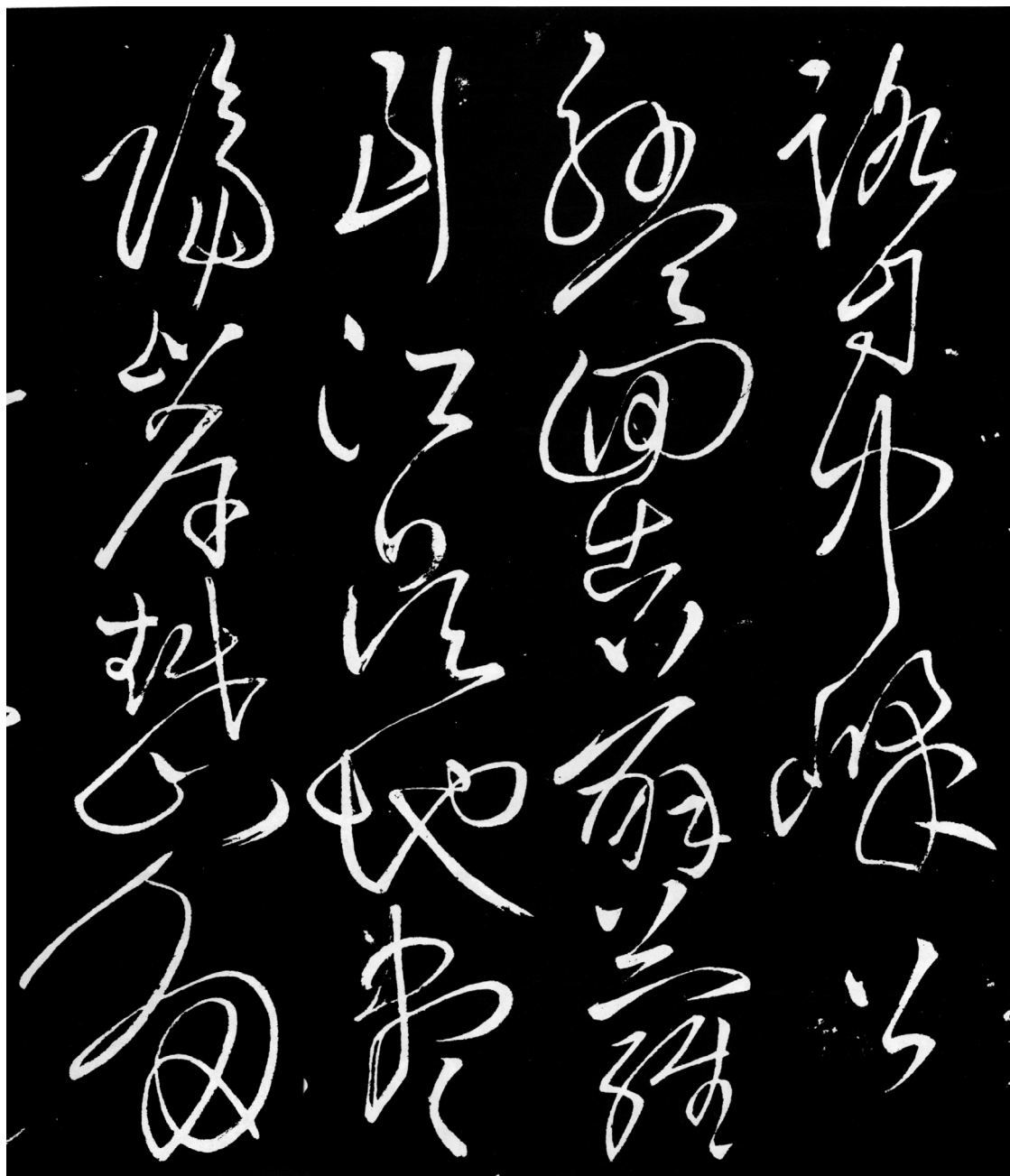
應に倚門の愁いを念うべし

細やかな春の草が、川岸に緑に茂るとき この若者はけなげにも旅に出る
やっと元服して冠帯をつけたばかりのわかかわかしだが その文章の輝かしさは遠く父祖の業を受
けつぐ

野中の渡し場に、花は妍を競って咲き 春の堤に水は乱れつつ流れる
太守は甥の君を可愛がってくれるだろうが 母堂が心配して待っているのを忘れてはいけない

5月27日正午必着

条幅部半紙部臨書課題

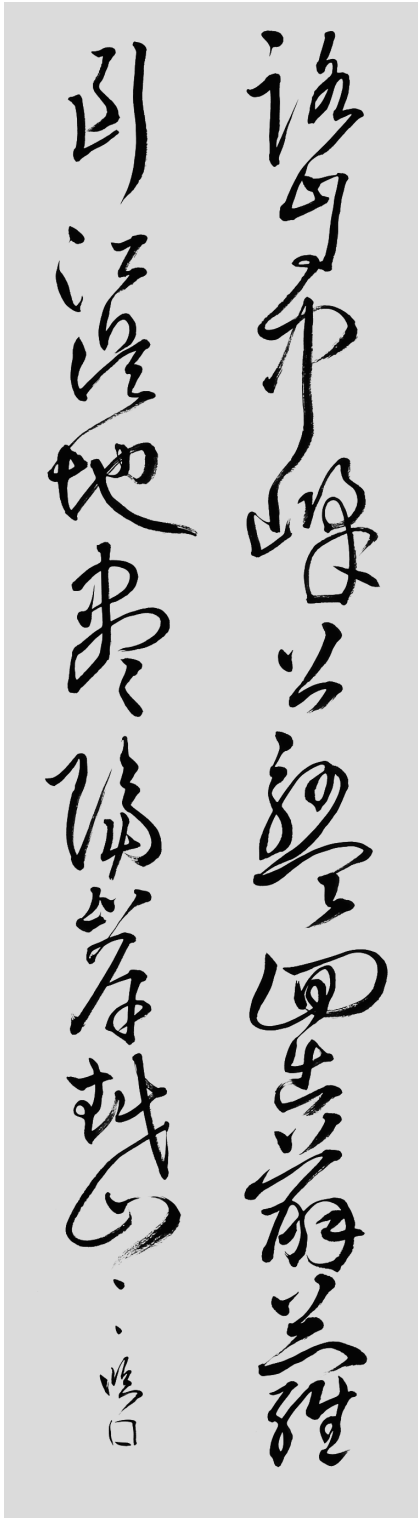


路自中峰上、

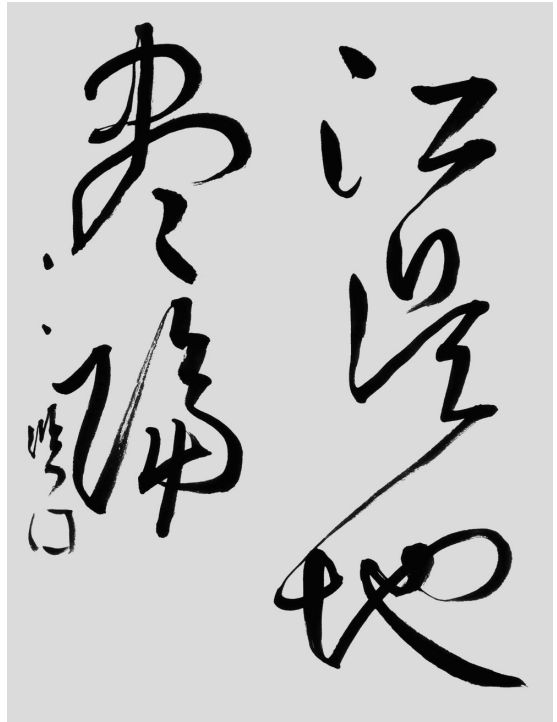
盤回出薜蘿。

到江吳地盡、

隔岸越山多。



路は中峰自り上り、盤回して薛蘿に出ず。江に到って吳地尽き、岸を隔てて越山(多し。)



江に到って吳地尽き、

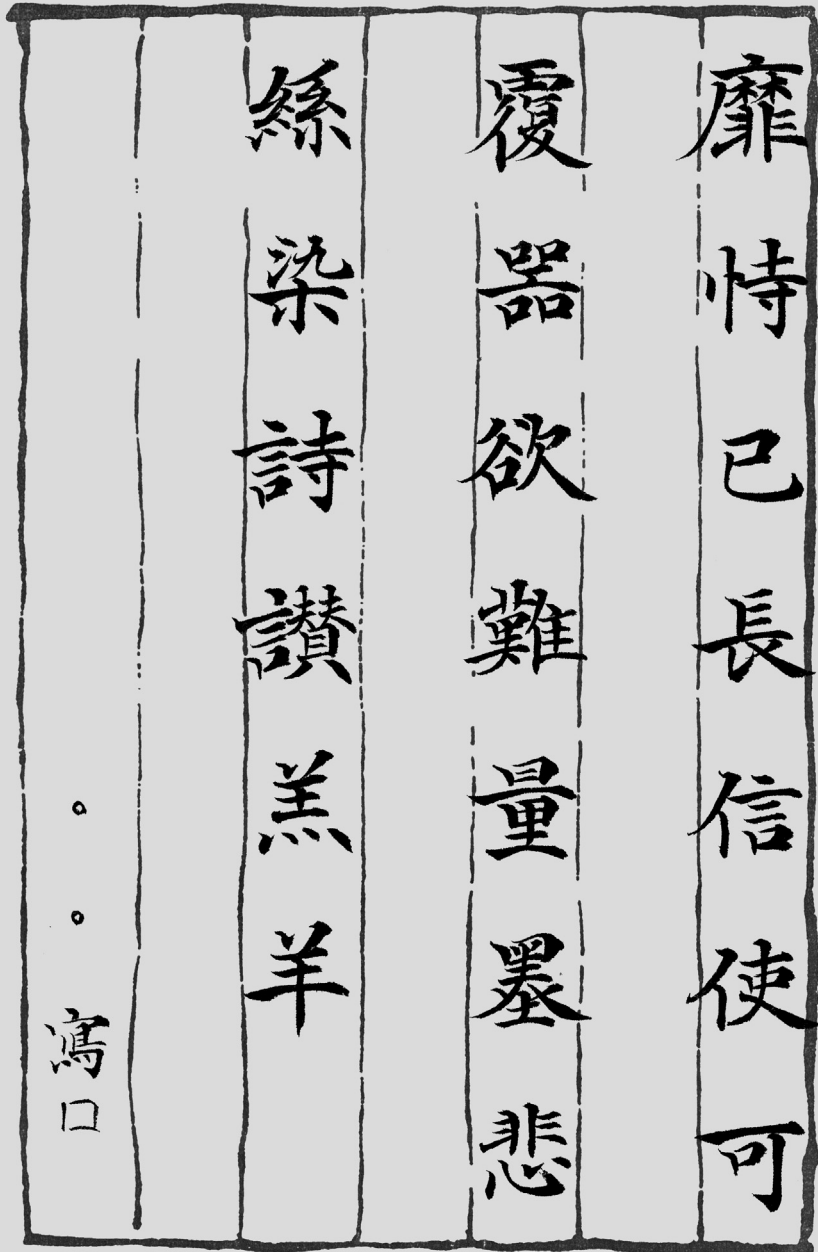
明末清初 王鐸・擬山園帖 第二

王鐸は明の萬曆二〇年(一五九二)河南省孟津に生まれる。明朝末期の天啓二年(一六三二)に進士となり、明が滅亡した後は清朝に仕え、「明史」編纂の副總裁などをつとめた。順治九年(一六五二)礼部尚書となったが、その年の三月病のために郷里で没した。字は覺斯(または覺之とも書いた)。号は高樵、癡庵、五岳道人など数多い。明朝の遺臣でありながら清朝に降ったことによって節義に欠ける者として白眼視されたが、彼のような唯美の世界に耽溺した人間としては、そうしたことにこだわらず自由な行動をとったのではないかといわれている。

明末から清初にかけては政治的にも社会的または民族的にも混沌とした時代で、書壇においても革新的な傾向におもむきつつある時期であった。そうした中から董其昌や王鐸らを中核として伝統的な書道からはなれ、新しい理念に基づく書の美しさを求めようとする風潮が生まれた。

王鐸は詩文書画をよくしたが、なかでも書は特に名高く、二王を中心に晋唐の古法帖の臨書に終生心血を注ぎながらも、彼独自の自由闊達な連綿行草の世界を作りあげていった。この書は擬山園帖全十巻の第二に見られるもので、鋒先の先まで力がかこもり、少しのよどみもない自由奔放な運筆は見事というほかはない。

(春濤)



玄和細字用紙

※用紙サイズ：半紙 $\frac{1}{2}$ タテ書き（毛筆）・玄和細字用紙（25枚綴り ¥550 | 税込、送料別）

西 墨濤先生書

三日月の光この間に
いりやすし
利春
はかなきおもひ
わくとあらぬに

三日月の光この間に
いりやすし
利春
はかなきおもひ
わくとあらぬに



松永翠舟先生書

三日月の光この間に
いりやすし
利春
はかなきおもひ
わくとあらぬに
(島木赤彦)

5月27日正午必着

教育部毛筆



ちょう
調

さ
査

中学一年

雨宮春聲先生書



かけ
掛

しく
軸

中学二三年

菅井松雲先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



榎戸春龍先生書

の野

みち道

小学五年



横川春川先生書

でん伝

とう統

小学六年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

5月27日正午必着



ふう

りょく

小学三年

藤田幸春先生書



とう

きょう

小学四年

細谷春誠先生書

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。



明石幸子書

いと 小学一年・幼年



森戸春濤書

生む 小学二年

※作品には必ず学年と氏名を毛筆で記入してください。

教育部硬筆

ペン字部

太陽が木のこずえを
 明るく照らしている

小学五年

白いはとが美しい教
 会の屋根の上をとぶ

小学六年

自然は限りない資
 源の宝庫である

中学

善事をなすのは人生に
 おける唯一の幸福である

一般(級位)

静かなる聲をひびく
 野空にひびく郭公の意

静かなる聲をひびくも聞かざりき野空にひびく郭公の意(土岐善麿)

一般(段位)

明石幸子書

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
 また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。

ぐ	げ
	ん
こ	き
い	に
の	
ほ	お
り	よ

幼年

さ	小
ら	か
と	わ
な	か
か	
れ	さ
る	ら

小学一年

も	山
う	は
日	ゆ
か	う
く	や
れ	け
る	

小学二年

か	五
ざ	月
り	人
ま	ぎ
し	よ
た	う
	を

小学三年

な	水
木	車
林	の
に	音
こ	が
だ	の
ま	ど
す	か
る	

小学四年

※出品には玄和硬筆用紙を使用し幼年・小学は鉛筆 中学・一般はペンまたはサインペンで書くこと。(ボールペン不可)
また、作品には必ず学年と氏名を記入してください。消しゴムを使用した作品は出品には適しません。